

史料番号	字句	よみ	意味
453	造兵廠	ゾウヘイショウ	旧日本陸海軍で、兵器・弾薬・車両・艦船などの購入・設計・製造・修理などを担当した機関および工場 昭和15年(1940)に砲兵工廠から造兵廠へ
	拝啓	ハイケイ	手紙の初めに書くあいさつの語 「つつしんで申し上げます」の意
	益御清穆奉賀候	マスマスゴセイボクヨロコビタテマツリソウロウ	ますますご清穆およろこび申し上げます
	陳は	ノブレバ	清穆＝清らかで、やわらいでいること
	將に	マサニ	多く、手紙文で相手の幸福・健康を祝う語として用いる
	果敢	カカン	さて 候文などの手紙で、時候のあいさつの次、本文の書き出しに用いる
	小職	ショウシヨク	本当に
	慙愧	ザンキ	決断力に富み、物事を思いきってするさま
	御座候	ゴザソウロウ	官職についている人が自分をへりくだっている語
	然るに	シカルニ	自分の見苦しさや過ちを反省して、心に深く恥じること
	強調致候義は	キョウチョウイタシソウロウギハ	…でございます
	却って	カエツテ	ところが
	来たす	キタス	強調致します訳は
	洵に	マコトニ	反対に 逆に
	苦心罷在候	ココログルシクマカリアリソウロウ	生じさせる 招く
	不日親敷参候致すへく候得共	フジツシタシクサンジソウロウイタスベクソウラエドモ	本当に
	予め愚見別紙開陳致度宜敷御高察願上候	アラカジメグケンヲベシニカイチンイタシタク、ヨロシクゴウサツネガイアゲソウロウ	心苦しくあるところです
	右得貴意候	ミギキイヲエソウロウ	近いうちにじかに行くよう致していますが
	帰せさるへからす	キセザルベカラズ	【フジツシタシクサンジソウロウイタスベクソウラエドモ
	野田醬油関西工場	ノダショウユカンサイコウジョウ	前もって私の意見を別紙に開陳(ありのままに述べる)致したく、よろしくお察し願ひ上げます
	日本炉材工業高砂工場	ニホンロザイコウギョウタカサゴコウジョウ	右のお考えをうけたまわります (経済の中枢を) 負わせなければいけない
	田熊汽缶	タクマキカン	現キッコウマン高砂工場
	然れども	シカレドモ	播磨耐火煉瓦-ハリマセラミック-現黒崎播磨(株)
	猶ほ	ナオ	現タクマ
	懸隔	ケンカク	そうではあるが しかし
	百数十町歩	ヒヤクスウジウチョウブ	まだ さらに
	謂うへきなり	イウベキナリ	二つの物事がかけ離れていること 非常に差があること
	這般	シャハン	田畑などの面積を町を単位として数えるのに用いる語 1町は約99.17アール
	而して	シコウシテ	いうべきである
	所謂	イワユル	このたび 今般
	彼我	ヒガ	そして それから
	十町	ジュッチョウ	世間一般に言われる よく言う
	逐次	チクジ	あちらとこちら
	而かも	シカモ	尺貫法の長さの単位 1町は約109メートル 10町=1090メートル
	跨かる	マタガル	順次
	愈	イヨイヨ	その上
	実相	ジツソウ	およぶ わたる ひろがる
	註せられしが	チュウセラレシガ	どうとう ついに
	繋ぐ	ツナグ	実際のありさま ありのままの姿
	先駆	センク	説明を書きつけられたが 注釈をほどこされたが
	漸次	ゼンジ	続け合わせて一つにする 続け合わせて通じるようにする
	須叟	シュウ【シュユ】	他に先がけて物事をする
	路傍	ロボウ	しだいに だんだん
	漸設	ゼンセツ	少しの間 しばらくの間
	日を逐つて	ヒヲオツテ	道のほとり みちばた
	折柄	オリカラ	次第に設けられる(新しくつくられる)こと
	高砂実科高等女学校	タカサゴジツカコウトウジョウガッコウ	【日を追って】 日がたつにつれて 日ましに
	添ふ	ソウ	時節
	愈々	イヨイヨ	高砂高等学校の前身 第七章【353】参照
	目捷	メツ【モクショウ】	目的どおりになる 叶う
	忽ち	タチマチ	ますます より一層
	言を俟たさる	ゲンヲマタザル	目前
			すぐ 急に
			改めて言うまでもない もちろんである

史料 番号	字句	よみ	意味
	廃川	ハイセン	人工的に廃止された川
	帰したるも	キシタルモ	最後にはそうなる
	位する	クライスル	位置する
	画する	カクスル	物事をはっきり分ける 区分する
	永劫	エイゴウ	限りなく長い年月
	天縁	テンエン	宿命的な相性 生まれ持った縁
	味ふべく	アジワウベク	物事の意を考えて、感じとるよう
	帰一	キイツ	一つに落ち着く わかれているものが一つにまとまる
	群雄割拠	グンユウカッキョ	多くの英雄が各地で勢力を振るい、互いに対立し合うこと
	趨勢	スウセイ	ある方向へと動く勢い 社会などの、全体の流れ
	凡て	スベテ	おおよそ 大体
	優に	ユウニ	十分に らくに
	茲	ココ	ここ
	夙に	ツトニ	ずっと以前から 早くから
	慫慂	ショウヨウ	そうするように誘って、しきりに勧めること
	遺憾	イカン	残念に思うこと
	荏苒	ジンゼン	なすことのないまま歳月が過ぎるさま 物事が延び延びになるさま
	邁進	マイシン	恐れることなく突き進むこと
	將た亦た	ハタマタ	それともまた あるいはまた
	捉ふ	トラウ	確実に自分のものとする 手に入れる
	惟ふに	オモウニ	考えてみるに 推察すると
	連環	レンカン	輪をつらねたようにつなぎ合わせること
	大計	タイケイ	大規模な計画
	喫緊	キッキン	差し迫って重要なこと 緊要
	巷間	コウカン	まちのなか 世間 ちまた
	孤城	コジョウ	敵に囲まれて、孤立している城
	隆運	リュウウン	勢い盛んな運命 盛運
	古格	コカク	古くからの格式 古来の方法
	抛たんや	ナゲウタンヤ	捨ててしまう(なげすてる)ことがあろうか
	期す	キス	期待する
	居り	オリ	人が存在する そこにいる
	猶ほ	ナオ	さらに まだ
	儼として	ゲントシテ	きびしく 厳格に
	千載	センザイ	長い年月 千年
	戴けり	イタダキケリ	いただいた
	豈啻た～	アニタダ～	ただ～ばかりでなく、さらに～である。 (ただ少しの優越感でないことは、さらに多くを語る必要はない)
	爾後	ジゴ	それ以来 以後
	因みに	チナミニ	ついでに言うと
	音に	タダニ	単に
	須らく～へき	スベカラク～ベキ	是非～する必要がある 当然～すべきである
	大所高所	タイショコウショ	小さな点にこだわらない、広く全体を見通すような観点・視野
	連衡	レンコウ	連合すること 同盟を結ぶこと
	大	ダイ	大事 重大な事柄 大がかりな仕事
	漸を逐う	ゼンヲオウ	少しずつ進む
	若かず	シカズ	…の方がよい
	仮令ば	タトエバ	例をあげていえば
	途上	トジョウ	事業・計画などが目的に従って進行している途中
	堰埭	セキタイ	水を他へ引いたり流量を調節したりするため、川水をせきとめる所
	画する	カクスル	計画を立てる 企てる
	爾余	ジョ	このほか そのほか
	茶飯事	サハンジ	ごくありふれたこと
	途説	トセツ	世間のうわさ
	渾然一致	コンゼンイチ	全体が溶けあって一つのものになること
	右意見開陳候也		右の意見をありのままに述べます
		ミギイケンカイチンソウロウナリ	